

ごあいさつ

委員長 渡邊さおり

山形県PTA連合会母親委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、各郡・市PTA母親委員会におかれましても、さまざまな活動を展開していただき、心より感謝申し上げます。

母親委員会では「いのちの尊さ大切さ」を活動テーマに掲げ、私たち一人ひとりが持つ命の尊さを改めて見つめ直し、子供たちの命と心を守り育むために何が出来るかを考えながら一年間取り組んでまいりました。各郡・市から寄せられた、子供たちの様子や子育ての悩み、そこでの活動や新たな取り組みなどのご意見を集約し、より良い家庭教育につなげるための学びを深めてまいりました。このお便りをご覧いただき、今年一年間の取り組みを共有していただければ幸いです。

家庭において男女が協力して子育てにあたることは、今や当たり前となってきていますが、日常的に子供と関わる場面では、お母さんの役割が大きいと感じられることもまだまだ多いのではないのでしょうか。一方で、山形県内では多くの学校で、お父さんがPTA会長を務めてくださっています。子供たちの未来をより良く支えるためには、お父さん・お母さん双方の意見と想いが大きな力になると信じております。

急速に変化するSNS社会の中で、子供たちを取り巻く環境は日々新たな課題に直面しています。便利さと同時に不安も抱える時代だからこそ、私たち大人が正しい情報を学ぶことが重要です。尊い命を大切に、みんなが笑顔で過ごせるよう、これからも皆さんと一緒に学び続けてまいります。

各地区的活動報告

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」～笑顔でつなぐ みんなの心～
- ・定例委員会3回(研修、情報交換等) 5/12、6/23、2/16
- ・拡大母親委員会1回 11/8
講演：『子どもと大人が前向きに暮らすためにできること
—SOSの出し方講座の取り組みから—』
講師：安保寛明氏(山形県立保健医療大学 教授 看護学科長)
- ・“親学”家庭教育視察研修 11/17
山形広域炊飯施設・山形市学校給食センターと
子育て支援 ほほえみ食堂
- ・母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.30 3月発行



令和7年度
第一回
母親委員会
令和7年6月1日

《上山市》

- ・保護者研修会(上山市PTA連合協議会との共催)
①行政説明「学びの多様化学校(上山きり学園)について」
②講演「保護者と先生がともに創る学校
～不登校・ひきこもりのアウトリーチの現場から～」
講師：藤崎郁子氏(開善塾教育相談研究所長)

《天童・東村山地区》

- ・母親の集いを地区PTA研修会と兼ねて実施

《最上地区》

- ・地区母親委員会全員研修会
年1回(講演・演習)
- ・代表母親委員会 年2回
- ・母親委員会だより
「かあちゃんほっとらいん」発行 2月

《北村山》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- 村山市：4月顔合わせ会/翌年3月報告会
- 大石田町：母親交流会、おたより発行
- 尾花沢市：委員会開催、おたより発行
- 東根市：組織なし

《西村山》

- ・委員会年3回開催(協議・研修会)
- ・代表委員会年2回開催(企画運営)
～名称変更～
- ・R7年5月の西村山PTA連合会総会において、母親委員会という名称を「子育て委員会」に変更し、それに係る規約改正も行った。
～研修会～
- ・西村山PTA研修大会寒河江大会を実施し、子育て委員会の研修会と共催にした。

《鶴岡市》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する

《東田川郡》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する

《西置賜地区》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- 長井市：母親委員会(年1回)
- 小国町：研修会の開催(年1回)
母親委員会(年2回)
- 飯豊町：研修会の開催(年1回)
- 白鷹町：母親代表の会(年2回)

《酒田飽海》

- ・母親委員会(情報交換会)
- ・酒田飽海PTA研修大会協力

《東置賜地区》

- ・地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- ・地区協議会において各市町の活動状況を報告

《米沢市》 ・活動休止中



令和7年度
第四回
母親委員会
令和8年1月25日



第77回山形県PTA研修大会 新庄・最上大会

令和7年10月18日(土)



【基調講演】「子どもの邪魔をしない教育と、 次の社会のためのヒント集」

講師：「トーキョーコーヒー」代表 吉田田タカシ氏

兵庫県出身、奈良県在住。アートスクール「アトリエ e. f. t.」代表。「まほうの다가しやチロル堂」の共同代表としてグッドデザインアワード大賞（内閣総理大臣賞）を受賞。教育や社会問題に取り組む「トーキョーコーヒー」を全国約400拠点で展開し、第19回キッズデザイン賞受賞。大阪府人権教育夏季研究会や日本PTA全国研究大会などにおいて多数の講演実績がある。バンド「DOBERMAN」ボーカル。教育者、デザイナー、ミュージシャンなど活動は多岐にわたる。

つくるを通して、いきるを学ぶ。「自分たちで決める」

- ・ものも人生も地域も社会も幸せな価値観さえも自分でつくっていい
- ・正解信仰（物事に正解があるという思い込み）を捨てる
- ・感覚を味わい、失敗を楽しみ、答えは自分でつくっていい

主体的に取り組むと、子供は何からでも学ぶ

- ・「ここに居ていい、生きていいんだ」と思える力を、無意識の奥にしっかりと柱として作ることが教育
- ・「安心・自信」（根っこ：ここに居ていいと思える力）が土台があれば、「主体性・意欲」（幹：生きていくんだという力）は自然と伸びる
- ・「主体性・意欲」（幹）が伸びると何もなくても「発想力」「表現力」などの力（枝葉）が伸びていく

子供が身をもって学ぼうとしていることを、大人が先回りして奪わない

- ・大人が鞭を入れると子供は前に進むが、鞭を入れなくなったら無気力になり、何もやらない
- ・大人が叱り、先回りして過干渉・保護すると、主体性がなくなっていく
- ・叱る基準について子供と合意・約束事があれば良い



「まほうの다가しやチロル堂」こども食堂の仕組みをリデザインし、子供の食事を支えるように見えて、大人が意識を変えている場所。大人同士がつながり、しあわせな社会について学び合っている。

「トーキョーコーヒー」“登校拒否”のアナグラムで、ネガティブな要素ばかりでなく、大人が楽しみながら価値観をアップデートすることで、子供も自然と笑顔になり、「自分は存在していいんだ」と思える力をはぐくむ場所になっている。

西置賜地区P 嶋貫弘子

～感想～

とても貴重な勉強の機会を得られたことを心より感謝申し上げます。

☆子供が自分でこれからの人生をつくっていくために

吉田田氏の発想力、そして実行力に驚かされました。私には及ばなかった考えが次々と示されて、最初から最後まで吉田田氏の言葉に聞き入っていました。一番心に残ったのは「自分も周りも肯定」という考え方です。人は誰でも、つい他者の失敗や自分にとっての違和感を指摘しがちですが、そうでないことを学びました。子供への接し方はもちろん、自分の職場や関わる皆さんと肯定しあい、大人も子供も楽しく幸せに過ごせる山形を目指していきたいです。

☆笑顔で、ぶつかっても仲直り

第一分科会では武田氏より「子供はいてくれるだけでうれしい」とのお話があり、ハッとしました。私は子供に対し、そう思っていたはずなのに「部活も勉強も頑張れ」と期待をかけていたと思います。今日、子供が帰ってきたら「ありがとう」と言います。 鶴岡市P 佐藤まりこ

各地区の活動紹介

酒田飽海PTA連合会



11月に発表校2校と、講師をお招きして第11回酒田飽海PTA連合会研修大会が行われました。私は実行委員として企画運営に携わりました。

広野小Pの発表は、伝統行事を大事に受け継ぎながら、地域と学校、保護者の暖かなつながりが伝わる内容でした。鳥海八幡中Pでは「持続可能なPTA活動の模索」ということで、役員選出の難しさやPTAの役割や必要性を考えさせられました。講演は昨年豪雨災害にあわれ、今現在も先頭に立って復興に取り組む合同会社COCOSATO代表の阿部彩人さんから地域との繋がりや地元愛が伝わる講話をいただき、最後に阿部さん作の【大沢「大」文字音頭】をみんなで踊り、楽しく、また改めて復興への意欲と地域の繋がり大切さを実感する研修会となりました。

少子化の中でPTA存続や保護者の意識、地域との付き合い方等いろいろな課題がありますが、子供たちの健やかな成長を願う立場として、何が大切か一人ひとりが向き合わなければならないと思いました。 酒田飽海P 熊谷想子

生命(いのち)の安全教育 ～ “守る”だけじゃない、“育てる”性教育～

講師： 片山枝美 氏



講師プロフィール

- ・(公社)やまがた被害者支援センター 犯罪被害相談員
- ・やまがた性暴力被害者サポートセンター コーディネーター
- ・公認心理師 ・元警察官
- ・(一社)日本思春期学会性教育認定講師



スマホを持つことが当たり前となった今、SNSに触れる時期も低年齢化が進み、これまでも、SNSに関わるトラブルや危険性については様々な場で見聞きし、ある程度は理解しているつもりでいました。しかし、今回の講演を聴いたことで、これらの問題をより身近なものとして捉えることができました。

講演では、特に子供たちが巻き込まれやすいSNS上での性暴力について、実際に起こった被害の事例と、子供の心理やその背景を丁寧に解説してくださり、危険性をより深く理解することができました。また、そこで改めて、大人と子供の「感覚のギャップ」に気付くことの大切さも実感しました。

さらに「もし子供たちから被害を打ち明けられたら」という場面における大人の対応についてもお話があり、「話の聴き方」や、被害にあった時に頼ることのできる「相談場所(専門機関)」についても知ることができました。これまで漠然とした不安を抱えていた部分が明確になり、私自身とても心強く感じました。

今回の講演で大切な子供たちの“心と身体の安全”を守るために私たち大人が知っておくべきことはまだまだたくさんあることを実感しました。何かと忙しく過ぎていく毎日ですが、子供たちのことについて考える時間はこれからも大切にしていきたいです。

天童・東村山地区P 滝口陽子

まず、「性教育＝心と体を守る避難訓練」というお話に引き込まれました。避難訓練は、いざという時のために自分を守る術を身に付けるという大切な意義があります。今やSNSが、生活の一部、あるいは不可欠なものになっているであろう現代の子供たちの親である私たちは、わが子に対して話しにくい領域である「性教育」に対する認識を改め、子供たちが自分自身を守っていけるように育てていかなければいけないのだと痛感しました。

被害を打ち明けられた場合の受け答え方として、「聞いたことを大人の言葉で言い換えないこと」、「あなたは悪くないよ」とサポートする『トラウマインフォームドケア』など、専門の治療でなく、私たちができる対応についても教えていただきました。

子供たちへの教育はもちろんですが、私たちが親として、大人としてできること、心がけたいこと、すべきことなど、多くのご教示をいただいた、貴重な研修会となりました。

東置賜地区P 川村誠

元刑事課で事件捜査に従事され、さまざまな被害者と接してこられた片山先生の貴重な講演をお聞きできたこと、大変有意義な時間となりました。

SNS・スマホの利用が低年齢化したことで、性被害や性加害が小中学生にも急増しています。その背景には、子供が大人に相談しにくい環境が原因のひとつになっています。「どんな気持ちにも、間違いはないこと」「気持ちを言葉にしてもいいこと」「イヤを伝えるのは、ワガママではなく、自分を守る大切な力」だということを、私達大人も理解しておく必要があります。子供と、日常から「話せる場」を作る努力をすることが、「聞いてくれる・受け止めてくれる大人がいる」という安心感に繋がっていきます。子供の発散する場が家族でありますように・・・そう願い、子供とのかかわりや会話を大切にしたいと思いました。

北村山P 森麻美



※公益社団法人 やまがた被害者支援センター HP からダウンロードできます

<https://yvsc.jp/download>



※山形市PTA連合会母親委員会の活動を視察研修させていただきました。

子どもと大人が前向きに暮らすためにできること —SOS の出し方講座の取り組みから

令和7年11月8日(土)

《講師》 安保寛明 氏 山形県立保健医療大学 教授 看護学科長

こころの健康増進に必要な いくつかのこと

- ・家庭、学校以外に、生きる上で参考になる大人と出会えること
- ・困っている人、困らせている人が、心理的安全性がある場に出会えること
- ・明日は(来週は、来月は)〇〇がある の様に条件がつかなくても楽しみにできる未来の予定があること

『こころの健康』は、気合や根性や我慢では守れないし、性格の問題でもない。
環境などによる心や脳への負荷の問題

～感想～



この講演で、子供も周囲の大人も SOS を出し“私”一人で頑張らないことの大切さを知りました。そのために、日頃から軽い悩みや些細なことを相談できる環境を作っておくことが必要だと感じました。

「他者に声をかける行動をとることで、自分も助けを求める行動を取れる様になる」という先生の言葉に、まずは自分から困っている人に声をかけ、助け合える関係を家庭外にも広げたいと思いました。 最上地区P 坂本かおり

「ストレス状態」とは
自分にとって「嫌なこと」だけではなく、
熱い寒いなど気温の変化や好きなことをしていても
↓
脳が疲れ、心のエネルギーを消耗した状態

- ☆疲労と回復のバランスが崩れると自分の力では回復できなくなる
- ☆誰かに聞いてもらい心の疲労を軽くして回復しなければならぬもし、話しても受け止めてくれないと感じたら、あきらめず **3人3か所までは声を出そう！→別の人や別の場所に打ち明ける** (相談窓口等)
- ☆親も一人で支えようとせずに、『**大きなかぶ**』の話のように助けを増やし、頼りになる人や場と、ハンモックのように子供を支えましょう！

～相談窓口～

24時間子供SOSダイヤル (0120-0-78310)
こころの健康相談統一ダイヤル (0570-064-556)
山形市保健所 精神保健・感染症対策室 (023-616-7275)
山形市 青少年指導センター電話相談 (023-631-4425)
山形市 こども家庭センター こども電話相談 (023-641-3636) 等



～令和7年度県P連教育懇談会に参加しました～

令和7年11月18日(火)

第7次山形県教育振興計画「ウェルビーイングを目指す、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う人づくり」について説明を受けました。県民が前向きに挑戦する姿勢が重要とされ、グループワークでは各自の挑戦やわくわく体験を共有しました。子供だけでなく保護者も挑戦心を持ち、互いに分かち合い、子供の挑戦をそっと応援することの大切さを実感できた時間となりました。 上山市P 鎌水麻里



県P連教育懇談会では、昨年に引き続き「山形のこれからの教育」をテーマに、県教育局の方から第7次山形県教育計画の説明をいただいたあと、グループに分かれ意見交換を行いました。

最初のアイスブレイク「ワクワク無限大」では、最近ワクワクした出来事やワクワクを感じた瞬間をグループで発表しました。私のグループでは親子の触れ合いを通して感じたワクワク体験が多く、和やかな雰囲気となりました。

次は「県民みんなでチャレンジ」のテーマから、「私がチャレンジしたいこと」の意見交換を行いました。各グループとも時間が足りない程、会話が盛り上がりつつありました。みなさんのチャレンジしたいことを伺い、大人になり親になった今、忘れかけていたチャレンジ精神がよみがえり、たくさんの刺激を受けました。他地域の方との交流を通して、それぞれの活動や多様な視点に触れられたことは、とても貴重な経験となりました。

最後に今年度より実施される県立高校入学者選抜の詳細もご説明いただき、有意義な時間を過ごすことができました。 西村山P 大沼賀世

あとがき

今年度、県P連母親委員会に参加し、県内各地の委員の皆様と交流する中で、それぞれの活動への想いや、母として母親委員会の一員として抱える悩みや課題を共有することができました。たくさんのお出会いと学びがあり、貴重な経験ができた充実した一年間になりました。

変化の激しい時代を生きる子供たちと共に、私たち親も常にアンテナを高く張り、正しい知識をアップデートしながら、未来に向かって笑顔で歩いていきたいと思います。 西村山P 大沼賀世

編集委員

山形市：渡邊さおり 西村山：大沼賀世
上山市：鎌水麻里 天童・東村山：滝口陽子



山形県PTA連合会
<https://ymgt-pta.jp>